

さいだいじきゅうけいだい 西大寺旧境内で発見された埋壘遺構

西大寺旧境内 奈良市西大寺本町

平成16年度に、奈良市教育委員会が西大寺旧境内で実施した発掘調査で、古代の埋壘遺構が見つかりました。発見された場所は、現在の西大寺の北北東約300m付近にあります。この場所は、西大寺の伽藍復原では食堂院跡推定地に該当しています。食堂院とは、僧侶が食事を摂る場所です。

発掘調査は、合計332㎡の発掘区を設けて実施しました。その結果、古代の埋壘遺構と凝灰岩列、掘立柱穴列、礎石掘付穴、条坊（道路）側溝、そして、中世の土坑などの遺構が見つかりました。

今回の調査では、埋壘遺構は合計28基分を確認しました。埋壘は、約1.5mの間隔で据えられており、その列は発掘区外の北側および南側へと延びています。遺構の様子からみて、少なくとも調査地内では東西4列、南北13列分の埋壘の存在が想定されます。

埋められている壘は、いずれも古代の須恵器で、胴回りの径は1.0~1.2mくらいと推測されます。発掘調査で検出された時には、下部の約1/3の部分が地中に埋まった状態で、その内部には壘自体の破片や古代の軒瓦などが多く落ち込んでいました。その中には、わずかながら土師器も含まれていて、遺構が埋まった年代を特定する手がかりとなりました。これらの埋壘遺構が廃絶するのは、およそ9世紀末~10世紀の初頭頃と考えられます。

また、この埋壘遺構の西側で、埋壘遺構に並行する形で南北に連なる凝灰岩列も検出しました。これらの凝灰岩列は、残り具合があまり良くなく、詳細なことはわかりませんが、平城京内寺院の主要伽藍の基壇でよくみられるような積み方ではないようです。ただし、一部には板状の石を置くなど、階段の跡ではないかと思受けられるような基壇の跡もあり、何らかの建物の外周を形成していた基壇の一部である可能性があります。そして、この凝灰岩列が廃絶する時期は、遺物の年代からみて、やはり9世紀末から10世紀初頭頃とみられます。

調査では、遺構の存する面が後世に削平されて



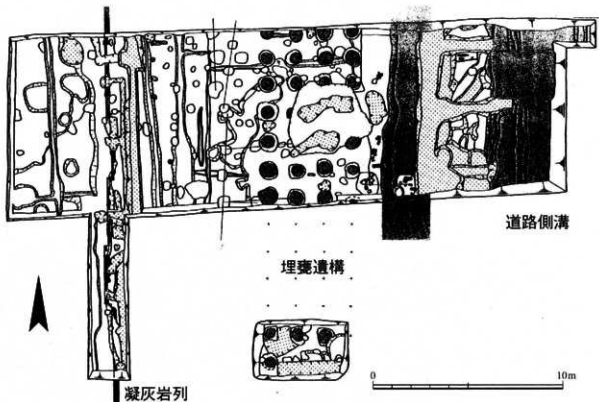
調査地位位置図 (1/20,000)

おり、埋壘遺構群と凝灰岩列との関係を直接知ることはできませんでした。しかし、二つの遺構の位置関係や廃絶した時期がほぼ同じであったことから考えると、これらは一体の遺構であった可能性が高いのではないかと推測されます。

ところで、創建当時の西大寺の伽藍の規模などを伝える「西大寺資材流記帳」（宣電十一〔780〕年）によりますと、食堂院地区には厨（台所）や倉という名称の付いた建物がいくつかあったことが記されています。そのように考えていくと、調査地はこの食堂院地区にあたるのですから、当然、厨や倉に伴って何らかの貯蔵施設があった可能性も推測できます。

埋壘遺構は、これまでに平城宮内や平城京内でもいくつかみつかり、食料などの貯蔵を目的とした施設であったものと考えられていますので、今回の埋壘遺構群の発見は、それが「西大寺資材流記帳」に書かれている建物や施設そのものであるかどうかは別として、食堂院に関連性のある貯蔵施設であったことは充分に考えられます。

なお、今回の埋壘遺構群の規模は、平城宮・京内でも確認されている例と比較すると、かなり大規模であることがわかります。こうしたことから、当時の西大寺食堂院内の様相を示す遺構として、きわめて注目されます。



遺構平面図 (1/200)

平城宮・平城京で確認された埋薬遺構

宮内・発掘地点	遺構番号	時期	方向	柱間幅	壁穴数	宮内・発掘地点	遺構番号	時期	方向	柱間幅	壁穴数		
1	遺構1	S20278	奈良期中	南北	3×3	16	43	6.3-2-4	S20300	奈良中・後	東西	(3)×2	26
2	遺構2	S20297	奈良期中	東西	6×2	15-110	44	6.3-2-4	S20300	奈良中・後	南北	(5)×2	26
3	遺構3	S613180	奈良期中	東西	2×4	11	46	6.3-2-4	S20302	奈良期中	東西	2×2	23
4	遺構4	S6116729	奈良期中	東西	6×2	30-103	48	6.3-2-1.6	S20307	奈良中	南北	1.3)×6	6
5	遺構5	S20304	奈良中	東西	5×2	9-8	47	6.3-2-1.6	S20305	奈良期中	東西	3×2	12
6	遺構6	S6116803	奈良中	南北	5×2	2	48	6.4-4-1.3	S2A11002	奈良	東西	5×2	11
7	遺構7	S6116802	奈良中	南北	5×2	4	49	6.4-4-1.3	S2031	奈良	東西	5×4	13
8	遺構8	S612019	奈良中	南北	6×2	11-206	50	6.4-4-1.4	S2047	奈良期中	東西	5×3	14
9	遺構9	S62011	奈良中	南北	7×4	4	51	6.4-4-1.4	S2074	奈良中	東西	4×2	12
10	遺構10	S6116804	奈良中	南北	7×2	28	52	6.5-1-1.6	S20226	奈良	東西	(6)×4	12-22
11	遺構11	S6116730	奈良中	南北	6×2	13-104	53	6.5-1-1.6	S20317	奈良期中	南北	6×2	3
12	遺構12	S6116805	奈良中	東西	7×2	306	54	6.5-1-1.6	S20319	奈良期中	南北	6×2	3
13	遺構13	S616727	奈良期中	東西	6×3	22	55	6.5-5-1.6	S2003	奈良	東西	1.3)×2	2
14	埋薬遺構14	S6116603	奈良期中	南北	1.1×2	4	56	6.7-1-1.6	S20601	奈良中・後	東西	5×4	4
15	埋薬遺構15	S620201	奈良中	南北	7×4	204	57	6.7-4-1.3	S2A011	奈良中・後	東西	7×2	12
16	埋薬遺構16	S62002	奈良中	東西	5×4	26	58	6.6-1.4-1.6	S20100	奈良中	東西	9×3	11
17	埋薬遺構17	S62005	奈良中	東西	5×4	21	59	6.2-3-3	S20206	奈良	東西	6×3	10
18	埋薬遺構18	S610632	奈良中	南北	7×3	30	60	6.2-3-3	S20303	奈良	東西	3×2	5
19	埋薬遺構19	S610578	平安朝前期	東西	7×4	16	61	6.2-3-3	S20319	奈良中	南北	5×2	13
20	宮内・発掘地点	S610601-2860	平安朝前期	南北	4×2	10	62	6.2-3-3	S20307	奈良	南北	4×2	12
21	遺構21	S61061	奈良中	東西	1.8×2	6	63	6.2-3-4	S20314	奈良中	東西	5×3	20
22	遺構22	S62020	平安朝前期	東西	6×3	15	64	6.2-2-4	S20225	奈良	東西	5×3	15
23	土層1	S61170	奈良中	東西	5×4	18	65	6.2-3-4	S20223	奈良中	南北	5×3	11
24	土層2	S61090	奈良中	南北	7×2	20	66	6.2-3-4	S20224	奈良中	南北	5×2	2
25	土層3	S61270	奈良中	南北	7×2	27	67	6.2-3-4	S20225	奈良中	東西	9×3	30-53
26	土層4	S61060	奈良中	東西	6×4	4	68	6.2-3-4	S20230	奈良	東西	5×2	17
27	土層5	S61060	奈良中	南北	7×3	27	69	6.2-3-4	S20231	奈良	南北	5×2	16
28	土層6	S61060	平安朝前期	南北	5×4	11	70	6.2-3-6	S20244	奈良	南北	3×2	6
29	遺構29	S610630	平安朝前期	東西	5×3	6	71	6.2-3-6	S20300	奈良	南北	3×2	6
30	柱 2-2-10	(S7896-7897)	奈良期中	—	—	7	72	6.2-3-6	S20252	奈良	南北	5×3	3
31	柱 2-4-2	S20110	奈良期中	南北	(2)×2	4	73	6.2-3-6	S20253	奈良	南北	4×2	3
32	柱 2-4-2	S20110	奈良中	東西	(3)×2	6	74	6.2-3-6	S20254	奈良	東西	5×2	12
33	柱 2-4-7	S2007	奈良	東西	5×3	22	75	6.2-3-6	S20252	奈良	東西	4×2	2
34	柱 3-1-7	S613280	奈良中	南北	4×2	3	76	6.3-2-1.5	S20119	奈良中	東西	5×3	(5)×1
35	柱 3-1-7	S613703	奈良中	南北	2×2	6	77	6.3-3-1	S2024	奈良	東西	5×3	2
36	柱 3-1-7	S2002	奈良中	南北	3×2	4	78	6.3-3-2	S20172	奈良中	東西	5×2	20
37	柱 3-1-7	S2002	奈良中	東西	4×2	2	79	6.3-3-2	S20133	奈良中	東西	(4)×2	6
38	柱 3-1-7	S2011	奈良中	東西	4×2	6	80	6.3-3-8	S20174	奈良期中	東西	5×2	30-46
39	柱 3-1-7	S2003	奈良	東西	(2)×2	6	81	6.3-3-8	S20175	奈良期中	東西	4×2	10
40	柱 3-1-10	S201480	奈良	東西	1.0×2	4	82	6.6-1-1.3	S201436	奈良期中	南北	5×2	10
41	柱 3-1-14	S20556	奈良中	東西	(2)×2	6	83	6.6-1-1.4	S201577	奈良期中	南北	5×2	10
42	柱 3-2-4	S20460	奈良中	南北	6×3	12-20	84	6.6-1-1.4	S201624	奈良期中	南北	4×3	4-5

玉田芳英「平城宮の遺跡」『文化財論叢』奈良文化財研究所 2002 より一部抜粋
(1-2図は平城宮跡で、官衙名など、その他は平城京跡で、衆・坊・坪で示した)